

学校支援フィールドワーク実習日誌

○実習日： I期 9月1日（月曜日）～9月30日（火曜日）

1 課題解決への視点

実習の項目	各視点からの状況
1 学校課題への支援	<p>研究テーマ「情報を活用し、説得力のある文章を書く力の育成を目指して」のもと、次の2点を中心に研究が進められてきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキストを理解、評価しながら読む力を高める取り組み 2 自分の考えを書く力を高めるための4つのプロセスの重視 <p>これまでに3つの公開授業を見せていただき、リフレクションを通してレポートを作成し、自分なりに授業の成果と課題をまとめた。また、研究推進委員会に参加し、下記のような点について校内全体研修で全職員に共通理解をはかり、今後の方向を検討する必要性が話し合われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマにおけるキーワードの共通理解 ・書く力を高める4つのプロセスを支えるものは何か <p>校内全体研修会では、キーワードの各自の捉えが意見交換され、国府小の捉えとして明確なものになった。また、1学期の授業研究を受けて、次の3つの視点を大切に今後の研究を進めていくこととなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活体験、体験的な活動と連動した単元づくり 2 テキストの吟味と提示の仕方の工夫 3 学び合いの場面の重視
2 実習者の目標、目的、課題	<p>（教科内容、特別活動及び生徒指導・進路指導等に関して）</p> <p>これまでの授業研究、研究推進委員会、研究主任との話し合い、校内全体研修、リフレクションを受けて、「活用」「書く力を高める」単元づくりのために、次のような2つの点が大切ではないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験に裏打ちされた感性が、豊かな言葉や文章につながる ○身につけなければならない技能を明確にし、適切な場面で提供する （技能の習得と活用の連動） <p><書くためのプロセス></p> <ol style="list-style-type: none"> ①伝えたいことが生まれる（体験的な活動との連動により） ②伝えるために、必要な情報を求める ③自分の考えを明確にする。 ④伝えるための方法を知る ⑤伝える <p><必要な技能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストから、自分に必要なものを選択し、読み取る技能 ・思考の技能 ・書くための技能 <p>今後は、技能という側面から、具体的にどのような場面でどのような力を身につける必要があるのかを探っていきたい。</p>
3 その他	<p>（課題解決へのアイデアや今後の実践へのヒント等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科との連動した国語科の授業 ・技能を身につける取り出し単元

2 実習において指導を受けた内容の記録

- (1) 指導内容 研究授業の成果と課題を受けて、次の研究の方向を検討する大切さ
- (2) 指導から修得したこと
一つひとつの授業を価値付け、意味をもたせていくことが、研究を練り上げる上で大切である。

【活動のまとめり毎にまとめて記入するもの】

学校支援フィールドワーク実習日誌（現職大学院生用）

○実習日： II期 10月1日（水曜日） ～ 12月4日（木曜日）

1 課題解決への視点

実習の項目	各視点からの状況
1 学校課題への支援	<p>II期においても、研究主任との研究の方向についての相談や、研究推進委員会への参加、授業者との指導案についての相談を行った。実践事例報告会が近づくにつれ、授業者と1対1で指導案を検討する機会が増えた。リフレクションを通して、アドバイザーからの具体的な示唆をもとに支援にあたった。</p> <p>I期の成果と課題を受けて設定された3つの視点を単元づくりの手がかりとしながら、生き生きとした子どもの意欲の伝わってくる授業が展開された。その3つの視点をもとに研究の成果と課題を振り返る。</p> <p>1 豊かな体験を生かした単元づくり</p> <p>体験的な活動がうまくいっている場合、子どもの「伝えたい」という意欲が高まる。「伝えたい」意欲が高まっていると、「どのように書いたら説得力があるのか知りたい。できるようになりたい。」という知識技能を身につけたい意欲も高まる。まさに「習得」と「活用」が連動している。</p> <p>2 テキストとなり得る資料の吟味と提示</p> <p>テキストとなり得る資料を多岐に広げることで、子どもが自分の書きたいことをたくさんの中から選んだり、多様な考えから自分の考えをつくることのできた。例えば、活動のポートフォリオ・友達からのコメント・自分の作品など。しかし、たくさんの中から選ぶこと、読み取ることには難しさがあるのも事実であった。そういったテキストを読み取る技能の習得にも今後目を向けていかなければならない。</p> <p>3 学び合いの場の設定と工夫</p> <p>意見交流によって、いろいろな見方考え方に触れたり、新たな視点をもつことは学びを広げたり深めたりする。意見交流が成立するには、自分の考えをしっかりとって話し合いに臨むことも大切な要素である。</p> <p>以上、3つの視点から研究を振り返った。単元づくりのよりよい方向性は、この3つの視点から語ることはできるのではないかと思う。</p>
2 実習者の目標、目的、課題	<p>（教科内容、特別活動及び生徒指導・進路指導等に関して）</p> <p>○書くための思考力を育む</p> <p>たくさんの研究授業を参観し、これまで具体的な指導が行われてこなかった技能面において、取り立てて指導する必要性を感じた。例えば</p> <ul style="list-style-type: none">・分類する技能、比較する技能、メモをとる技能、関係を考えて表現する技能、根拠を述べる技能 等 <p>これまで、取り立てて指導されることが少なく、生活や学習の中で自然に身につくことや読むことでつけた力から転移することに委ねられていた技能である。これらを取り立てて指導するミニ単元作りを試み、実践事例報告会においてプレゼンテーションを実施して紹介した。</p>
3 その他	<p>（課題解決へのアイデアや今後の実践へのヒント等）</p> <ul style="list-style-type: none">・思考力を育てるミニ単元の作成と試行による結果分析

2 実習において指導を受けた内容の記録

(1) 指導内容 研究の組織作り

(2) 指導から修得したこと

研究紀要部、学年授業担当部等、責任者を中心に各部で研修を進める体制をつくりつつ、研究主任は全体を把握、進捗状況を確認しながら、校内全体で進める研究にする大切さ。